

### 3 協働事業実施状況（令和4年度）

#### ① 協働の形態：共催（19件）

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
1	まちかどミーティング (協働・男女平等参画室)	例年実施 (昭和62年頃から継続実施)	市長が各地区に出向いて、町内会や自治会の方と地域が抱える課題や要望等について、意見を交換する懇談の場である。また、市民の方に知っていただきたい情報について、市職員がテーマプレゼンテーションとして説明することにより、双方向の対話形式になるよう取り組んでいる。	82町内会	令和4年8月23日～10月20日 (275人) 16地区にて開催	例年まちかどミーティングで400件程度の意見や要望等が提出されており、各担当課で対応をしている。市が行うテーマプレゼンテーションについて、出席者からは、市の取組をわかりやすく説明してくれて大変いい、継続して行ってほしいという意見が出ている。
2	ノーザンホースパークマラソン2022 (スポーツ都市推進課)	例年実施 (平成23年頃から継続実施)	マラソン大会の実施 ノーザンホースパークを会場とし、苫小牧市・安平町・千歳市を回るコース設定 ・ハーフ+7kmトレイル ・ハーフマラソン ・7kmトレイル ・2.5kmペアラン	ノーザンホースパークマラソン実行委員会、(公財)苫小牧市スポーツ協会、安平町、安平町体育協会、安平町教育委員会	令和4年5月15日(約2,400名)	スポーツの振興や地域住民の参画、また多くの参加者等により地域活性化に寄与している。
3	苫小牧民報杯第34回苫小牧ハスカップトライアスロン大会in勇払 (スポーツ都市推進課)	例年実施 (平成24年頃から継続実施)	トライアスロン競技の実施 ・一般の部 スイム1.5km、バイク40km、ラン10km ・リレーの部 スイム1.5km、バイク40km、ラン10km ・バイク&ラン バイク40km、ラン10km  国民体育大会北海道ブロック予選会 日本選手権北海道予選会 日本学生選手権北海道地区予選会 北海道トライアスロンサーキット 同時開催	苫小牧トライアスロン協会、(公財)日本体育協会、(公財)北海道体育協会、株式会社苫小牧民報社、(公財)苫小牧市スポーツ協会、苫小牧市教育委員会	令和4年7月31日(約300人)	スポーツの振興や地域住民の参画、また多くの参加者等により地域活性化に寄与している。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
4	苫小牧30k春 (スポーツ都市 推進課)	例年実施 (令和3年頃から継 続実施)	マラソン大会の実施 緑ヶ丘公園を会場に、目標と する大会のシミュレーション と脚づくりの場とした 「練習会式イベント」  ・30km ・10km	一般財団法人アール ビーズスポーツ財 団、株式会社北海道 新聞社	令和5年3月26日(約500 人)	スポーツの振興や地域住民の参 画、また多くの参加者等により 地域活性化に寄与している。
5	歴史地震研究会 公開講演会 「北海道胆振東 部地震から4年 ～歴史と地層か ら古地震をさぐ る～」 (危機管理室)	単年度(新規)実 施	北海道胆振東部地震から4年 を迎え、さらに太平洋沿岸の 巨大地震に伴う津波浸水想定 が見直しされる中、この地域 において過去に地震があった ことを知り、地震への備えを 強めるため、同研究会に研究 成果について一般市民向け公 開講演会を開催するもの。  【講演内容】 北海道の歴史地震 鏡味洋史(北海道大学名誉教 授) 厚真町の地震痕跡 乾哲也(厚真町教育委員会学 芸員) 胆振地方沿岸の津波痕跡と 地震の履歴 西村裕一(北 海道大学准教授)	歴史地震研究会	令和4年9月3日(約60 人)	道内においても、過去に地震が 繰り返し発生していることや、 この度の浸水想定算定の根拠と なる津波痕跡の状況を解説す ることで、市民一人ひとりの地 震・津波に対する意識を高め、 地域防災力の向上につながっ た。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
6	防災・減災シンポジウム「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震への備え」 (危機管理室)	単年度（新規）実施	<p>北海道の暮らしは、美しく豊かな自然に恵まれる一方、自然災害と隣り合わせにあり、地域住民、企業、ボランティア、関係団体や国・地方公共団体の防災担当者を対象としたシンポジウムの開催により、切迫する千島海溝・日本海溝地震に備え、自助・共助・公助の調和がとれた「災害に強くしなやかな社会づくり」に向けて、日頃からできることを考える。</p> <p>事例発表 苫小牧市（市民生活部危機管理室） 室蘭市（総務部防災対策課）</p> <p>講演 「命を守る 迫り来る日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震への対応」 東京大学大学院情報学環特任教授 日本災害情報学会 会長 片田敏孝</p>	国土交通省北海道開発局	令和 4年10月31日 (現地聴講103人、オンライン189人)	東日本大震災における釜石市の学校避難の状況や、南海トラフ地震で最大津波が想定された高知県黒潮町の取組事例の紹介を通じ、できる限りの備えと万が一の際に最善を尽くすことの重要性が啓発され、津波災害に対する市民意識の向上につながった。
7	消費生活講演会 (市民生活課)	例年実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者自らが、その時代に即応した豊かな暮らしを創造していく機会と暮らしに役立つ知識や情報を提供し、消費者意識の高揚を図ることを目的に開催。</li> <li>・テーマや講師選択、実施について協力。</li> </ul>	苫小牧消費者協会	令和 5年 3月11日 (21人)	専門家から様々な情報や基礎知識を得ることができ、参加者からも大変勉強になったとの感想をいただいている。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
8	リーダー養成事業 (青少年課)	例年実施 (昭和52年頃から継続実施)	様々な体験活動から積極的に社会参加するたくましい青少年を育成する目的でリーダー養成事業を行っているが、本事業は苫小牧市子ども会育成連絡協議会の後援事業であり、苫小牧市子ども会連絡協議会主催の各種事業もリーダー養成認定事業であることから、各種事業に参加することでポイントが得られ、リーダー認定を行う制度を協働で行っている。	苫小牧市子ども会育成協議会	・子ども会交流会 令和4年8月27日、令和5年2月12日(21人) ・子ども会スポーツ交流会 令和4年10月2日(19人) ・子ども会カルタ大会 令和4年11月20日(約10人) ・子ども芸術祭 令和5年2月18日～19日(164人)	子どもたちの育成について、市が単独で事業を実施するよりも協働して計画及び実施することで、子ども達に多くの学習機会を提供することができ、また、多様な意見を聴取することで更なる事業の発展に繋がっていると考えている。
9	市民技能体験教室「庭木の剪定」「内装」「日曜大工」「左官」 (工業・雇用振興課)	例年実施 (昭和62年頃から継続実施)	4種共通目的：市民と技能士とのふれ合いを通じて、技能そして技能士制度への理解を深める。 ・庭木の剪定：庭の手入れについて講義と実技指導 ・内装：家のクロスの剥がし方、貼り方の講義と実演 ・日曜大工：ウッドデッキの作製、塗装 ・左官：しっくい壁塗り体験、タイルアート作製	4種共通：一般社団法人苫小牧地域職業訓練センター運営協会 庭木の剪定：苫小牧造園協同組合 内装：苫小牧内装業協会 日曜大工：苫小牧建築大工技能士会、苫小牧塗装工業協同組合 左官：苫小牧地方左官協同組合	・庭木の剪定 令和4年10月15日(14人) ・内装 令和5年1月21日(18人) ・日曜大工 令和5年2月12日(18人) ・左官 令和5年3月11日(13人)	各教室終了後のアンケート結果では、無回答者を除いた参加者の100%が満足していると回答している。
10	2022年度サテライト・ゼミ 苫小牧「経営に活かす！人材育成の進め方」 (工業・雇用振興課)	単年度(新規)実施	中小企業が限られた人材を“戦力”に育てるための視点や手法を理解し、強い組織を作り上げるための人材育成の進め方について演習や事例を交えて学んだ上で、自社の人材育成プランの立案に取り組む。	独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部	令和5年3月8日(7人) 令和5年3月9日(7人) 令和5年3月10日(7人)	市内企業7社から管理者やリーダークラスの方7人が参加し、経営や人材育成の目的、必要性を学び、演習等を交え、企業の垣根を超えた人脈づくりにも繋がりを、市内の中小企業の振興を図ることができた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
11	令和4年度 苫小牧市中小企業創業サポート事業 (商業振興課)	例年実施 (平成27年頃から継続実施)	創業サポート事業は、苫小牧市、苫小牧商工会議所及び苫小牧市男女平等参画推進センターにおいて開催される創業セミナーの受講完了者に、創業等に要する経費の一部を補助することにより、「苫小牧市中小企業振興条例」を推進し、地域経済の発展、経営基盤の強化、雇用の確保を図ることを目的とします。	苫小牧商工会議所、苫小牧市男女平等参画推進センター	令和 4年 5月25日 (26人) 令和 4年 6月18日 (17人) 令和 4年 7月 2日 (26人) 令和 4年 7月 9日 (25人) 令和 4年 7月16日 (24人) 令和 4年 7月23日 (19人)	本事業への参加申込は73人の方々からあり、セミナー参加人数は延べ137人、補助金の交付申請は34人から申請されました。その結果、令和4年度内で実際に市内で創業し、補助金の交付決定に至った人数は34人となっており、地域経済の発展、経営基盤の強化、雇用の確保に寄与したものと捉えています。
12	令和4年度技術者研修 (テクノセンター)	単年度(新規)実施	苫小牧地域の製造関連企業に対する人材育成を実施するため。実施コース 「精密測定技術」	北海道職業能力開発大学校	令和 4年11月10日～11日 (7人)	セミナーで取得できる技術は苫小牧地域の製造業などにとって非常に有用であり、地域企業の技術力向上に寄与できた。
13	技術セミナー 「最新金属3Dプリンター・関連装置及び3Dプリント用アルミニウム材料」 (テクノセンター)	単年度(新規)実施	地域企業の技術力向上及び地域産業の振興発展を図ることを目的に金属3Dプリンタに関する技術講演会および技術交流会を実施。	(公社)日本鑄造工学会 北海道支部、室蘭工業大学	令和 5年 3月15日 (48人)	セミナーで取得できる技術は地域の製造業などにとって非常に有用であり、地域企業の技術力向上に寄与できた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
14	苫小牧市小・中学生のための札幌親子しおさいコンサート (生涯学習課)	例年実施 (平成21年頃から継続実施)	本市の小・中学生に生のオーケストラ演奏を肌で感じてもらい、豊かな感性を育むことを目的とする。	株式会社北海道新聞社、株式会社苫小牧民報社	令和 4年 4月26日 (3人) 令和 4年 6月22日 (3人) 令和 4年 8月23日 (3人) 令和 4年11月11日 (2人) (延べ11人)  ・イベント 令和 4年 8月27日 (578人)	申し込み時点では844名の入場希望者があり、当日は昼頃から小雨が降るなどあいにくの天気だったが、578名の方が来場した。アンコールではサプライズで「みんなのとまチョップ」を演奏し、檀上にとまチョップが登場しダンスをする演出があったことから、鑑賞者が曲に合わせて手拍子をするなど会場の一体感が生まれ、フルオーケストラの演奏を十分に楽しんだ様子であった。当事業は小中学生がクラシックに触れる貴重な機会であるため、次年度以降の開催についても是非にという声があった。
15	令和4年度苫小牧市民塾 (生涯学習課)	例年実施 (平成19年頃から継続実施)	「ゴミから見える私の地球」をテーマに、苫小牧市女性団体連絡協議会創立70周年記念大会と共同開催。SDGs(持続可能な開発目標)に繋がる身近な取組を、市民の「ごみに対する意識調査」から見える視点をテーマに学んだ。	苫小牧市女性団体連絡協議会	令和 4年 9月19日 (92人)	講演内容は、事前に実施した市民アンケートの結果報告をもとに、ごみに対する市民の傾向や、市で行っている実際の取組や補助制度の紹介であった。市民にとって身近な題材だったためか例年に比べ参加者も多く、熱心に聞き入っている様子が伺えた。
16	ももんちゃんとあそぼうin とまこまい(とよたかずひこさん講演会) (中央図書館)	単年度(新規)実施	苫小牧読み聞かせ文庫活動連絡会と共催し様々な絵本作家さんをお招きし、絵本作家さんの生の声を市民の皆さんに届ける講演会を開催。	苫小牧読み聞かせ文庫活動連絡会	令和 4年10月 1日 (73人)	準備段階で、明確なビジョン・方向性を打ち出し進むことができた。今回は「親子で楽しむ」をコンセプトに開催し、絵本作家さんが大型絵本や紙芝居を読んでくださり、参加者にとっても好評だった。今後も、大人向けの講演会に親子で楽しんでいただく講演会も織り交ぜながら開催していきたい。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体 等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
17	子ども広報部 「びとこま」 (美術博物館)	例年実施 (平成24年頃から継 続実施)	美術博物館の美術館活動における基本理念のひとつである「子どもの感性を育む美術館」に基づき、子どもたちの美術全般に対する興味・関心を高めることを目指している。また、アートを媒介とした子どもと大人のディスカッションに活動の力点を置くことで、子どもたちの論理的な思考力や表現力を高めることをねらう。	NPO法人 樽前arty プラス	令和 4年 5月14日 (23人) 令和 4年 6月25日 (19人) 令和 4年 7月23日 (13人) 令和 4年10月15日 (23人) 令和 4年11月19日 (20人) 令和 4年12月17日 (14人) 令和 5年 1月28日 (19人) 令和 5年 3月 4日 (19人)  全8回 延べ150人	参加者からは、「また参加したい」、「子どもと大人のディスカッションを通して子どもの成長が見られた」など一定の評価を得ている。子どもの美術全般に対する興味・関心を高めるだけではなく、人と関わる積極性が向上するなど子どもの成長にも良い影響を与えていると考えている。
18	トヨタ自動車北海道株式会社創業30周年記念事業 特別展「芸術の都ウィーンとデザインの潮流」 (美術博物館)	単年度(新規)実施	トヨタ自動車北海道株式会社の創業30周年を記念し、同企業のメセナ活動の一環として実施した本展では、19世紀末ウィーンの巨匠グスタフ・クリムト、エゴン・シーレ、オスカー・コシュカの作品を中心に、“芸術の都ウィーン”の精華とそこをひとつの起点として花開いた工業デザインの潮流について64点の作品及び資料により紹介することで、広く市民に対して一流の芸術を紹介する機会を設けた。	トヨタ自動車北海道株式会社	令和 4年 7月16日～ 8月28日 (7,432人)	東京藝術大学教授の佐藤直樹先生を監修者としてお迎えすることができた。本展のように、地元企業との綿密な協議に基づく連携事業は、他都市では見られないものであり、一流の作品の数々を広く紹介する貴重な機会となった。市民からは、「苫小牧でこのようなレベルの高い展覧会を開催して頂きありがたい」、「欧州各国の芸術の流れを俯瞰することができ面白かった」、「なかなか道外の美術館へ足を運ばないのでありがたい」といった好意的な意見が多く寄せられた。
19	子どもわくわく教室IN苫小牧 親子で楽しむ理科実験教室 (科学センター)	例年実施 (平成24年頃から継 続実施)	工作や実験を通じて、理科への興味・関心を深めてもらうことを目的として開催している。全国各地で理科教室を開いている日本理科教育センター代表の小森栄治さんを講師に、子どもたちが磁石や静電気の仕組みについて学んだ。	Let's Kids うとねつと苫小牧支部(TOSSシグナス)～略称 うとねつと苫小牧	令和 5年 2月18日 (22人)	参加した子どもたちとその保護者から、磁石や静電気についてわかりやすく学べて面白かったと好評だった。